

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|---|---------------|-----|---------|
| 報告番号 | 博(医歯薬)乙第 40 号 | 氏名 | 塚 越 達 彦 |
| 学位審査委員 | | 主 査 | 平 山 謙 二 |
| | | 副 査 | 西 田 教 行 |
| | | 副 査 | 橋 爪 真 弘 |
| <p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、B型肝炎ウイルス (HBV) の高度流行地であった南太平洋フィジー国における 20 年にわたる HB ワクチン接種事業による効果を横断的な血清疫学調査により明らかにしようとしたものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 人口 180 万人のフィジー国の主要な 2 つの島を対象に、西部、中央部、北部の 3 地域から、3 つの異なる年齢層のグループ、すなわち、現行ワクチン接種グループである 5 歳以下の乳幼児群、接種事業が開始された時期に出生した 16 歳から 20 歳の青年群、および接種事業開始以前の 21 歳以上の成人群の血液サンプルを必要十分な数収集し、HB 抗原および抗体価を測定することにより、各年齢層別の HBV の感染状況を解析したもので、これらの研究手法はいずれも妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、乳幼児群のワクチンによる抗体陽転率は 98.2%と高く、ウイルスキャリアーは 0%であった。接種事業後出生の青年群では予想に反しワクチンによる抗体陽性率は低く、接種事業以前出生の成人群と同様の高いキャリアー率を示した。以上の結果から HB ワクチン接種事業は開始後 20 年で、ワクチンの品質、および対象者のカバー率などが大きく改善されていることが明らかとなった。本研究は、途上国を対象に広く行われている予防接種プログラムの客観的な評価法を世界に先駆けて提示したものであり、今後の進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は感染症制御学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p> | | | |